

## 平成 29 年度「第二次三重県行財政改革取組」の進捗状況について

「第二次三重県行財政改革取組」は、「協創・現場重視の推進」「機動的で柔軟かつ弾力的な行財政運営」「残された課題への的確な対応」を3つの柱として、取り組んでいるところです。

本取組の進捗状況については半期ごとに取りまとめ、県議会に報告するとともに、ホームページなどを通じて県民の皆さんへ公表することとしており、今年度の具体的取組の年度実績を、資料1別表のとおり取りまとめました。

なお、1月末時点で取りまとめているため、2月以降の実績は見込みとなっています。

### 1 主な具体的取組の状況

#### 【協創・現場重視の推進】

##### ○協創による事業・業務の実施を促進する仕組みの構築（別表 番号2）

庁内の協創事例を集約したポータルサイトについて、掲載内容を充実させるとともに、職員研修での紹介やメルマガへの掲載等、さまざまな機会を通じて、職員への周知を図りました。

##### ○協創の推進に向けた職員の現場・実践体験の促進（別表 番号3）

職員が、企業・NPO・市町などのさまざまな主体においての実践体験を積むことで、現場感覚を高め、協創の推進につながるよう、各部局において現場インターンを実施しました。

（平成28年度：4か所へ派遣      平成29年度：10か所へ派遣）

#### 【機動的で柔軟かつ弾力的な行財政運営】

##### ○機動的で柔軟かつ弾力的な働き方改革の推進（別表 番号4）

平成29年度のワーク・ライフ・マネジメントにおける推進項目の一つとして、「時差出勤勤務」について、具体的な実施内容や実施時期について労使で検討を行い、試行的に実施しました。

（実施期間 平成29年6月1日～平成29年9月29日）

##### ○機動的な財政運営の確保（別表 番号5）

県財政の健全化に向けた具体的方策として、「三重県財政の健全化に向けた集中取組」を策定しました。

具体的な取組として、事務事業や県単独補助金の見直し等による歳出削減に取り組むとともに、県有施設について総点検を実施し、見直しの方向性について庁内協議を行いました。

また、人事・給与制度について、国や他府県との均衡の観点から見直しに取り組み、退職手当の支給基準の引き下げを行いました。（平成30年4月1日から実施）

さらに、クラウドファンディングの活用や使用料、手数料の見直し等による歳入確保に取り組みました。

(クラウドファンディング活用事業 平成 29 年度 1 事業 平成 30 年度 7 事業)

#### 【残された課題への的確な対応】

○意欲の向上に向けた組織風土づくり(別表 番号 7)

職員提案制度について、職員が改善提案を行うための事例を集約した「M I E 職員力ポータルサイト」の運用を開始するとともに、M I E 職員力アワードについて、各部局での優良取組の選定や、優良事例の水平展開に向けた取組を進めました。

(M I E 職員力アワード応募所属割合 平成 28 年度 69.5% 平成 29 年度 78.4%)

## 2 達成割合と今後の進行管理

「みえ県民カビジョン・第二次行動計画」における「行政運営の取組」の県民指標である「行財政改革取組の達成割合」について、11 の具体的取組のうち、昨年度達成済みの 4 取組に加えて、今年度は計画どおり 4 取組が達成となる見込みです。

今後の進行管理について、達成度が「継続」の取組においては、引き続き「ロードマップ(工程表)」に基づき、適切な進行管理を行うとともに、年次計画を策定し着実な推進を図ります。また、既に「達成済」及び「達成」見込みの取組においても、定期的の実績等を確認しながら、取組に係る成果の維持・向上に努めます。